

人とかわりながら課題を解決できる子どもの育成

～『学び合い』を基盤とした「学び合い」の実践～

伊達市立保原小学校 (代表) 校長 佐藤 喜夫 教諭 斎藤 恵美

1 研究の趣旨

本校は、東日本大震災後に生じた課題の解決に向けて、平成24年度～26年度の3年間、『学び合い』による授業改革に取り組んできた(第1期)。27年度からは、これまでの実践をふまえ、学力向上を目指して本校の共通実践事項に基づいた「学び合い」の実践をスタートさせた(第2期)。28年度はその2年目となる。

これまでの成果として、人間関係の改善、望ましい学習集団づくり、学力調査結果の向上が確認できた。一方で、授業における「学び合い」の質的な高まりに課題が残り、その一因として「教師の意図的なかかわり」の実践・検証が曖昧であるという反省に至った。

そこで、28年度は「教師の意図的なかかわり」をこれまでの共通実践事項に加えた授業づくりを実践し、子どもの学びの充実を図っていく。本校の「学び合い」を実践することにより、子どもたちの主体性と協働性を生かしながら思考力を育て、自ら課題を解決できるたくましい力を身に付けさせたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の概要

校内研修として、5つの視点を共通実践事項として共有し、「学び合い」の授業づくりに検証改善サイクルを構築して取り組む。また、学校全体で計画的に授業を支える学び合う集団づくりを実践する。

(1) 5つの視点に基づいた個人による実践(年間)

- ① 視点1: 子どもにとって意味のある課題の提示
- ② 視点2: 主体的・協働的な学びの充実
- ③ 視点3: 教師の意図的なかかわり
- ④ 視点4: 学びのふり返り
- ⑤ 視点5: 授業と家庭学習のサイクルの確立

(2) 校内授業研究会による授業改善

(3) 学び合う集団づくり

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 校内の検証改善サイクルを意識した研修に計画的に取り組んだ結果、教員みんなが同じベクトルで研究実践を積み重ねることができた。どの学級においても、生き生きと自信を持って学ぶ子どもの姿が見られ、教員の授業改善への意欲や指導力の向上につながってきている。
- ② 個人実践を軸として、5つの視点に基づいた授業づくりに取り組んだ結果、保原小学校としての授業づくりの基盤を確立することができた。子どもたちが、課題達成に向け能動的にかかわり、学ぶ楽しさや喜び、「学び合い」のよさを実感して次の学びへの意識を高める授業実践を積み重ねることができた。
- ③ 学校、スクールコミュニティ、地域が連携し合った学び合う集団づくりの推進は、主体的・協働的な子どもの育成に大いに役立った。

(2) 今後の課題

- ① 保原小学校の「学び合い」の質をさらに高めていきたい。
- ② ふり返りの充実を図ることで、新たな課題を見出して学び続ける子どもの姿を育てていきたい。